

続・仮説演繹法を用いた診断ステップ

〈症例紹介〉 原田 慶 (日本小動物がんセンター)

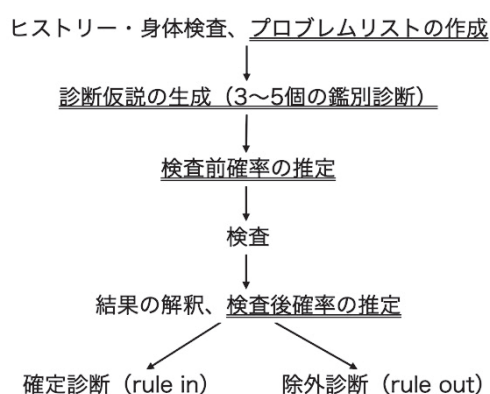
〈アドバイザー〉 臨床病理学：小笠原聖悟 (小笠原犬猫病院) 画像診断学：小野 晋 (スカイベッツ)
病理学：賀川由美子 (ノースラボ)

〈運営サポート〉 橋本直幸 (倉敷芸術科学大学) 米地若菜 (奈良二次診療クリニック)

〈司会・プロデューサー〉 小林哲也 (日本小動物がんセンター)

仮説演繹法とは？

仮説演繹法は、経験豊富な獣医師や専門医などが診断時に用いている考え方で、可能性の高い鑑別診断を重点的に考える実践的かつ合理的な方法論です。



仮説演繹法を用いた診断ステップの考え方。よく分からない病態に遭遇した際、鑑別診断を考えるとなく、血液検査や画像検査に進んでしまうと、検査結果に振り回されることがある。二重線を引いた項目を飛ばしてしまわないように注意

シンポジウムの目的

仮説演繹法を用いた診断推論の考え方を知ってもらうこと。

シンポジウムのゴール

検査、直感、経験のみに頼る診断法ではなく、合理的かつ系統的に診断ができるような方法論を学ぶこと。検査結果に振り回されない (されにくい) 診断のステップを学ぶこと。

シンポジウムの受講に適した参加者

学生、新卒獣医師、検査・直感・経験のみに頼った診断を続けてきた獣医師、系統的な診断法を学びたい獣医師、後輩の教え方に悩んでいる獣医師、専門家を目指したいけど今まで系統的な診断学を学んだことがない獣医師など。

本シンポジウム受講前～受講後までの流れ

本シンポジウムは受講者参加型シンポジウムです。予めスマホにインストールしたアプリを用いて、受講者に模擬診断を体験して頂きます。本シンポジウムは2023年1月28日(土)に開催される予定ですが、本シンポジウムの効果を最大限に引き出せるよう、シンポジウム前後に皆様に実践して頂きたいことがございます。

1. 仮説演繹法のオンラインレクチャーを視聴する。オンラインレクチャーの視聴法は、日本獣医がん学会のホームページでご案内致します。本シンポジウムにご参加される方は、事前にご視聴ください。
2. シンポジウムで使用するアプリの企画用URLをお使いのスマホに読み込む (当日QRコードを配布予定)。
3. シンポジウムでは、下記に挙げるような、日常的によく遭遇する病態を7題ご紹介します (演目の一部は変更されることがあります)。これらの病態で来院した動物の鑑別診断およびイニシャルプランを一緒に考えて頂く予定です。各アドバイザーには診断を鑑別する時のコツも解説して頂きます。なお、各病態や腫瘍の治療に関しては今回一切触れません。
 - ① 犬と猫の慢性鼻汁・鼻出血
 - ② 犬の肺腫瘍
 - ③ 犬の肝臓腫瘍
 - ④ 犬の肛門周囲腫瘍
 - ⑤ X線で認められた骨融解
 - ⑥ 高カルシウム血症
 - ⑦ 犬の口腔内腫瘍
4. シンポジウム中、チャット機能 (匿名可) を用いて質問し、理解できなかったところをそのままにしないよう心がける。
5. シンポジウム終了後2週間以内に復習をする。本シンポジウムで作製した鑑別診断リストとイニシャルプランをご自身の手でまとめ (ハンドアウトPDFをダウンロードするだけではダメです!)、いつでも引き出せる場所に保管してください。復習時の参考となるよう、本シンポジウムで使ったスライドは、VETSCOPEのウェブサイトからダウンロードできるように致します。

さいごに

前述の通り、本シンポジウムの趣旨は仮説演繹法を用いた診断推論の「考え方」を学んで頂くことです。一方、本シンポジウムと一緒に作製した鑑別診断リストは、小動物臨床の現場で将来必ず役に立ちます。犬種、年齢、状況や病態に則した鑑別診断リストが少しずつ増えてゆくことで、検査結果に振り回されない、ブレない診断力を身につけることができるようになるでしょう。そして、その先には専門家への道が見えてくるかも知れません。